

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471903086
法人名	新星ハウス
事業所名	はくおうの里
訪問調査日	平成22年10月5日
評価確定日	平成22年11月29日
評価機関名	株式会社R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903086	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	新星ハウス株式会社			
事業所名	はくおうの里			
所在地	(239-0842)			
	神奈川県横須賀市長沢1-34-15			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月24日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち「はくおうの里」で働くの全ての職員は、認知症によって自立した生活が困難になった方々の安心と尊厳のある生活を守るため、力を尽くす事を使命感と誇りを感じております。又グループホームを地域に開かれたものにすると共に、利用者様が地域社会の一員として生活する事を支援しております。尚職員は明るい職場を作ること心がけ、積極的に研修に参加して介護技術の向上に努力をしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年10月5日	評価機関 評価決定日	平成22年11月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特長として

①このホームは今年、2階部分を改装して1ユニットを増設し、2ユニットのホームとして再スタートした。ロケーションが京急長沢駅前と云うアクセスの良さ、海にも山にも近く、社長の親戚は果樹農園を営んでいることもあって、みかん狩りなども楽しめる快適なホームである。経営は新星ハウス株式会社と云う住宅の専門であるため、ビルの2、3階であるにもかかわらず、木をふんだんに使った内装により、木造の暖かさを持つリビング、居室となっている。ご近所との関係はゴミの清掃協力により、良い関係にあり、運営推進会議にも参加して頂いている。職員も「ありがとう」と頂く言葉に喜びを感じ、ご近所と親しい関係が出来ている。入居者が18人に増えたので地域での知名度も上がり、町内会や隣の公園の盆踊りでは席を設け招待して頂ける等、ご近所との良い関係維持出来ている。

②ご家族への連絡は毎月の通信、ケアプラン、変化の起きた時の電話などで定期的に行う他、ご家族は地元の方が多く、良く訪問してくれているので、その折に直接お話しするようにしている。月2回の内科往診に加えて、歯科、精神科の往診、接骨院によるマンサージ等も導入し快適なホーム生活をサポートするよう努めている。

③利用者の思いの把握については常に大切であると理解し、把握に努めている。認知症は中、軽度で、生活も自立した利用者からは直接、重度の方からはその行動・表情から意向を把握するようにしている。ケアについては、グループで行うこととし、カーデックスの気付きノート及び連絡ノートで毎日の気付きを記入するモニタリングを実施している。ご家族の訪問も多いので、要望等を伺うようにしている。特に2階については新しい職員が多いので教育に力を入れている。

④利用者が明るく過ごせる為には、職員が明るいことが大切であり、各々の得意分野を活かし、お互いに良いコミュニケーションを保ちながら、明るい雰囲気作りに努めている。これを維持するため、職員同士 日常及び会議でも、何でも云い合えるような雰囲気作りを大切に作り組んでいる。2階のお風呂には重度化に備えリフト浴を導入し、2階の重度化された方に有効利用されるようになり、備えが功を奏している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム・はくおうの里
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームはくおうの里・倫理綱領（別紙）を作成、理念を共有し実践している。入居前よりの交流のあった皆様とのお付き合いを大切にし、生き生きとした生活を支援している。	グループホームはくおうの里・倫理綱領に理念を掲げ、マニュアルにも組み込み、職員全員で共有し実践している。理念の根本に、入居前よりの交流のあった方々や地域とのお付き合いを継続し、生き生きとした生活を支援するように努め、実践につなげている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設は経営者の地元位置しており近所の農家より頻繁に野菜のお裾分けを頂くほど良好な関係を保持している。又町内ゴミ集積場所の清掃を施設が定期的に行い感謝されている。	経営者は地元地元の人であり、近所の農家等との関係は頻繁に野菜のお裾分けを頂くほど良好な関係である。又、町内ゴミ集積場所の清掃を施設が定期的に行い感謝されている。民生委員の方には協力を頂き、下北浦のボランティアセンターからボランティアの方に来て頂いている。経営者の関係でイチゴ狩り、ミカン狩りに行き、整骨院のマッサージも受けている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者が生活をされている世帯で認知症を理解できずに苦慮する方たちにアドバイスをして感謝されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは家族会代表、町内会長、地域代表、民生委員という構成で、今年からは6回全て事業所会議と変更になった。7/29には市職員の出席もあった。経験豊富なメンバーからの忌憚のない意見に感謝している。今後も和気藹藹の内に素直な意見を頂き改善に役立てたい。	運営推進会議のメンバーは町内会長、地域代表、民生委員、家族会代表という構成で、今年からは6回全て事業所会議として年間予定を決めて開催することとした。7/29に開催された運営推進会議には市職員の出席もあり、経験豊富なメンバーから意見を頂くことにより、今後も意見を改善に役立てて行くことにしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横須賀市は高齢者福祉支援に熱心であり、些細なことでも施設で抱え込まずに行政にすぐに相談し問題の解決を図っている。	横須賀市は高齢者福祉支援に熱心であり、些細なことでも施設で抱え込まず、行政に相談することにより問題の解決を速やかに図っている。今年度から運営推進会議の地域会議は任意の開催となった。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止については全職員が常に厳しく徹底しております。又その重要性については社内研修等を開催、認識して介護に対応できるように心がけ利用者様が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮しています。	身体拘束の防止については、全職員に喚起を徹底し取り組んでいる。又、社内研修等を開催して認識を図り、介護に生かすよう努めている。ご利用者が外出しようとする際は、制止せず、さりげなく声をかけを行い職員が一緒についていくよう配慮に努めている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い虐待の防止には努力研鑽している。全職員はその重要性を認識しており日々の介護に実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の利用者が1名いらっしゃるの制度については理解している。今後外部研修、社内研修も予定していて、更なる制度の熟知に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては本人・家族の出席のうえ入念に説明・確認を行い努めて契約書を持ち帰って頂き納得したうえで日を改めて締結するように配慮している。重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制の実態などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は重度の認知症が多く意見の聴取は困難な状況です。家族会も開催し「通信」も毎月発行して家族の方からも電話及び無記名の投書箱も用意してあり意見を徴集する体制は出来ている。	ホームでは、重度の認知症が多く、本人の意見の聴取は困難な状況であるが、介護の中で本人の意向を察知し、要望を汲めるよう努めている。家族会も開催し「通信」も毎月発行し、家族の方からの電話や無記名での投書箱を設置し、意見を抽出する体制を整えている。家族会は介護の大きな力となっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の忌憚のない意見を尊重し業務の運営・活性化を「業務改善意見」として反映させ、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見は尊重し、業務の運営・活性化に「業務改善意見」として反映し、また、日頃から職員間でコミュニケーションを図るよう努め、会話を大切にしている。2F、3Fでは2Fが最近の開所であり、人員の交流も含めて体制の整備に努めている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。毎年、人事考課を行い、職員が向上を持って働けるよう働きかける。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修は毎月実施し交代で出席できるように配慮をしている。又外部研修は日給及び諸経費を支給しそれぞれ多大なる成果を上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内同業者（横須賀市認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会）の研修会に自主的に参加し利用者様へのサービス向上に寄与している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族等より出来るだけ詳細に聴き取り「基本情報」を作成、担当のケアマネよりも状況の説明を受けている。特に本人・家族が困っている事は概ね把握、本人・家族にも機会を作り説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事不安に思っている事等の相談を受け入れる体制は出来ている。これまでの家族の苦労や今までの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで、落ち着いてもらい、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に施設見学・体験入所等により自立に向け必要な支援を見極め相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	孤独な状況に落ちがちな利用者様（現在は18名在籍）を支えながら本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることにも努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前より家族は施設に全面的にゆだねてしまう傾向が有るので、職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族との協力関係を築けるよう期待する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の理念でもあり馴染みの町内・友人等の関係を大切に、いつでも面会に来て頂けるように支援している。	施設の理念を根幹に、馴染みのある町内や友人等の関係を大切に考え、いつでも面会に来て頂けるように支援に努めている。地域の入居者の方も多く、土地柄も同じであるので、地域の方との交流を大切にしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気な利用者様が虚弱な方の手を引いたり、気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者様同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の希望により老人保健施設等へ移動する場合には、新しい施設で支障が出ないように当施設での生活状況を情報提供し退所後も関係維持を心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様が本当に望んでいる事、利用者様にとって本当に必要な事は何かを把握し本人本位に支援している。	日頃の介護の中で、一人ひとりの思いや望んでいる事、ご本人が必要な事は何かを察知し、把握に努め、本人本位に立ち支援するよう努めている。介護計画はICFを基盤にしており、ご家族との交信記録やご家族とのカンファレンスも持つようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から必要な事を聞き取りプライバシーにも配慮をして個々の歴史や経過を把握することに今後も努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事出来ない事、判る事判らない事を把握する事が大切であり実施している。今後も現状把握を心がけ意識の向上を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためにはどんな支援が必要か、毎日の生活・過去の生活を参考に家族・職員の意見・気づきノートを参考に介護計画を作成している。	日頃の介護をサマリーしてのモニタリング（3ヶ月毎）を毎月のカンファレンスで実施している。本人がより良く暮らすためにはどんな支援が必要か、毎日の生活・過去の生活を参考に家族・職員の意見を気づきノートに纏め参考にしながら介護計画を作成している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事・水分・排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録し、毎日の引継ぎ等で職員が共有すると共に介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の帰宅願望の発生には家族と相談し臨機に対応している。又家族と帰宅したが馴染みの職員がいる所に早く帰りたい、と言って頂けるほどに良好な関係が出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出先から施設に帰れない場合を想定し警察・近隣の関係者に平素より協力関係を依頼している。又ボランティア（カラオケ・書道）をお願いして成果を上げている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関等の医師をかかりつけとする場合は、本人と家族の同意を受け、月に2回の往診受診で24時間365日の対応をしている。	本人及びご家族等の希望を大切に、納得が得られ、事業所の医療連携体制の提携医師をかかりつけ医とする場合は、本人とご家族の同意を得て、月に2回の往診受診で24時間365日の対応をしている。この他、精神科月1回、歯科月2回、整骨院のマッサージ週2回の往診もある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常の健康管理や相談を実施している。又毎日の生活の中から個別の健康管理を実施すると共に緊急時にも迅速に対応出来る体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が発生した場合には、かかりつけ医に連絡をし指示を仰ぎ家族・病院と協働・連携を行っている。又短期間に入院目的が達成されるよう病院サイド・家族と話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応・医療連携及び看取りに関する指針が有り利用者様・家族の承諾を頂き共有している。	重度化した場合には医師、ご家族、ホームの3者で話し合い、今後の方針を決め、医療連携及び看取りに関する指針に沿い、ご利用者・ご家族の承諾を得て対応するようにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルが有り職員には徹底している。又かかりつけ医による24時間365日の対応を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に沿って年2回利用者とともに避難訓練を実施し消防署には報告済みである。なお、町内よりの支援については町内会長より承諾を頂いており感謝をしている。	防災計画に沿い、年2回、ご利用者も参加して避難訓練を実施している。消防署には報告をしている。また、運営推進会議を通じて町内会長より承諾を頂き、町内の支援を得ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアマネジメントでは利用者様・家族のプライバシーを尊重し聴き取った事には厳重な守秘義務を職員全員に課している。又職員も全員趣旨を理解している。	ケアマネジメントについては、ご利用者・ご家族のプライバシーを尊重し、業務上見聞きした事について守秘義務を職員全員に遵守するよう促し、プライバシーを確保するよう努めている。又、職員は全員、趣旨を理解している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声かけ、職員側で決めたことを押し付けることはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者様が自分で決める場面（飲みたい物、食べたいメニュー、する、しない等）をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション、様子をみながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるような手伝いをし、希望により美容院にも行けるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員は同じ食事を一緒に楽しみながら食べ方の混乱や食べこぼしに対する支援をさりげなく行っている。食事の支度・下膳は元気な利用者様にも手伝って頂き共に行うように心がけている。	ご利用者と一緒に食事を楽しみながら食し、食べ方の混乱や食べこぼし等の支援をさりげなく支援している。また、元気なご利用者には食事の支度・下膳のお手伝いを頂き、一緒に行うようにしている。奥様が栄養士であり、小さな食材屋を利用しており柔軟な対応で要望が利いた食事が提供ができています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りが起らないように毎食の食事での見守りを重視している。又食事については外食産業の管理栄養士にメニューの希望を出し支援している。水分の確保については問題がない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を月2回実施（医療保険）。自分で出来る方は声掛け見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。排泄チェック表も使用して排泄パターンを把握している。	排泄について、本人の自尊心に配慮し、一人ひとりの様子を察知し、身体機能に応じながら介助に努めている。トイレでの排泄を大切に、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討した支援に努めている。また、排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために牛乳やヨーグルト等で十分な水分補給・繊維食品の摂取及び散歩等毎日の生活の中で継続的に対応している。又個別に排泄の状況を把握し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴槽は一般家庭と同じで座位での機械浴も有る。ゆっくり本人のペースで楽しんでいただくように対応している。なお風呂嫌いの利用者様にもそれとなく誘い、週2回以上は行っている。	浴槽は一般家庭と同じで座位での機械浴も有る。ゆっくり本人のペースで楽しんで頂けるように支援している。お風呂嫌いのご利用者については、誘い方に工夫をし、週2回以上は入って頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の一人ひとりの睡眠パターンを把握し夜眠れない方には日中の活動には配慮をしている。なお、どうしても寝られない夜は職員が話し相手になる等対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師・看護師よりのアドバイス及び市販の本による解説等で概ね職員は理解している。なお、薬の管理は利用者様では困難であり施設で管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者様の「出来る事」「やりたい事」を尊重して極力自力で行えるように見守りを重視、楽しみながら気分転換を図って頂くように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩若しくは適宜のドライブにより外出を楽しんで頂いている。なお、施設には専用の車両を用意して有りいつでも利用できる。	日常的に毎日の散歩や適宜のドライブ等で外出を楽しむ機会を持っている。ホーム隣の公園には毎日外気浴を楽しんでいる。施設には専用の車両があり、いつでも利用できる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金をもっている人もいる。それ以外の方は施設で管理し希望・必要に応じて日用品や化粧品等を自由に買い物が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける利用者様は、毎年、家族・親戚への年賀状を書いておられる。希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者様の要望を取り入れ、居室・食堂等の配置を変更したり、家族・地元農家から花の差し入れが有り居心地の良い環境を作っている。	共用空間では、ご利用者の要望を取り入れ、居室・食堂等の配置を変更したり、ご家族や地元農家から花の差し入れを頂き、居心地良く過ごせる環境の工夫に努めている。また、手作りの作品、季節感のある作品、写真等を掲示して和やかな空間作りをしている。職員に絵の上手な人がいてサポートしている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室は冷暖房・床暖房が完備し一人で静かに過ごすことが出来る。又気の合う入居者・友人とゆっくりと話す事も出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により思い出の家具等（タンス・仏壇等）を持ち込み生活の継続を図り、楽しく居心地の良い環境を作るように支援している。	居室は、本人の希望により馴染みのある家具や仏壇等を自由に持ち込まれ、居心地の良い生活の継続ができるよう生活環境の支援に努めている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりの利用者様の身体機能が活かせるように、安全で自立した生活ができるように細かく配慮されている。		

事業所名	グループホーム・はくおうの里
ユニット名	3階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームはくおうの里・倫理綱領（別紙）を作成、理念を共有し実践している。入居前よりの交流のあった皆様とのお付き合いを大切にし、生き生きとした生活を支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設は経営者の地元位置しており近所の農家より頻繁に野菜のお裾分けを頂くほど良好な関係を保持している。又町内ゴミ集積場所の清掃を施設が定期的に行い感謝されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者が生活をされている世帯で認知症を理解できずに苦慮する方たちにアドバイスをして感謝されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは家族会代表、町内会長、地域代表、民生委員という構成で、今年からは6回全て事業所会議と変更になった。7/29には市職員の出席もあった。経験豊富なメンバーからの忌憚のない意見に感謝している。今後も和気藹藹の内に素直な意見を頂き改善に役立てたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横須賀市は高齢者福祉支援に熱心であり、些細なことでも施設で抱え込まずに行政にすぐに相談し問題の解決を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止については全職員が常に厳しく徹底しております。又その重要性については社内研修等を開催、認識して介護に対応できるように心がけ利用者様が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い虐待の防止には努力研鑽している。全職員はその重要性を認識しており日々の介護に実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の利用者が1名いらっしゃるの制度については理解している。今後外部研修、社内研修も予定していて、更なる制度の熟知に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては本人・家族の出席のうえ入念に説明・確認を行い努めて契約書を持ち帰って頂き納得したうえで日を改めて締結するように配慮している。重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制の実態などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は重度の認知症が多く意見の聴取は困難な状況です。家族会も開催し「通信」も毎月発行して家族の方からも電話及び無記名の投書箱も用意してあり意見を徴集する体制は出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の忌憚のない意見を尊重し業務の運営・活性化を「業務改善意見」として反映させ、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。毎年、人事考課を行い、職員が向上を持って働けるよう働きかける。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修は毎月実施し交代で出席できるように配慮をしている。又外部研修は日給及び諸経費を支給しそれぞれ多大なる成果を上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内同業者（横須賀市認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会）の研修会に自主的に参加し利用者様へのサービス向上に寄与している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族等より出来るだけ詳細に聴き取り「基本情報」を作成、担当のケアマネよりも状況の説明を受けている。特に本人・家族が困っている事は概ね把握、本人・家族にも機会を作り説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事不安に思っている事等の相談を受け入れる体制は出来ている。これまでの家族の苦労や今までの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで、落ち着いてもらい、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に施設見学・体験入所等により自立に向け必要な支援を見極め相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	孤独な状況に落ちがちな利用者様（現在は18名在籍）を支えながら本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることにより、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前より家族は施設に全面的にゆだねてしまう傾向が有るので、職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族との協力関係を築けるよう期待する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の理念でもあり馴染みの町内・友人等の関係を大切にして、いつでも面会に来て頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気な利用者様が虚弱な方の手を引いたり、気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者様同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の希望により老人保健施設等へ移動する場合には、新しい施設で支障が出ないように当施設での生活状況を情報提供し退所後も関係維持を心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様が本当に望んでいる事、利用者様にとって本当に必要な事は何かを把握し本人本位に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から必要な事を聞き取りプライバシーにも配慮をして個々の歴史や経過を把握することに今後も努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事出来ない事、判る事判らない事を把握する事が大切であり実施している。今後も現状把握を心がけ意識の向上を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためにはどんな支援が必要か、毎日の生活・過去の生活を参考に家族・職員の意見・気づきノートを参考に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事・水分・排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録し、毎日の引継ぎ等で職員が共有すると共に介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の帰宅願望の発生には家族と相談し臨機に対応している。又家族と帰宅したが馴染みの職員がいる所に早く帰りたい、と言って頂けるほどに良好な関係が出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出先から施設に帰れない場合を想定し警察・近隣の関係者に平素より協力関係を依頼している。又ボランティア（カラオケ・書道）をお願いして成果を上げている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関等の医師をかかりつけとする場合は、本人と家族の同意を受け、月に2回の往診受診で24時間365日の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常の健康管理や相談を実施している。又毎日の生活の中から個別の健康管理を実施すると共に緊急時にも迅速に対応出来る体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が発生した場合には、かかりつけ医に連絡をし指示を仰ぎ家族・病院と協働・連携を行っている。又短期間に入院目的が達成されるよう病院サイド・家族と話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応・医療連携及び看取りに関する指針が有り利用者様・家族の承諾を頂き共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルが有り職員には徹底している。又かかりつけ医による24時間365日の対応を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に沿って年2回利用者とともに避難訓練を実施し消防署には報告済みである。なお、町内よりの支援については町内会長より承諾を頂いており感謝をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアマネジメントでは利用者様・家族のプライバシーを尊重し聴き取った事には厳重な守秘義務を職員全員に課している。又職員も全員趣旨を理解している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声かけ、職員側で決めたことを押し付けることはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者様が自分で決める場面（飲みたい物、食べたいメニュー、する、しない等）をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション、様子をみながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるような手伝いをし、希望により美容院にも行けるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員は同じ食事を一緒に楽しみながら食べ方の混乱や食べこぼしに対する支援をさりげなく行っている。食事の支度・下膳は元気な利用者様にも手伝って頂き共に行うように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りが起らないように毎食の食事での見守りを重視している。又食事については外食産業の管理栄養士にメニューの希望を出し支援している。水分の確保については問題がない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を月2回実施（医療保険）。自分で出来る方は声掛け見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差しのべたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。排泄チェック表も使用して排泄パターンを把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために牛乳やヨーグルト等で十分な水分補給・繊維食品の摂取及び散歩等毎日の生活の中で継続的に対応している。又個別に排泄の状況を把握し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴槽は一般家庭と同じで座位での機械浴も有る。ゆっくり本人のペースで楽しんでいただくように対応している。なお風呂嫌いの利用者様にもそれとなく誘い、週2回以上は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の一人ひとりの睡眠パターンを把握し夜眠れない方には日中の活動には配慮をしている。なお、どうしても寝られない夜は職員が話し相手になる等対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師・看護師よりのアドバイス及び市販の本による解説等で概ね職員は理解している。なお、薬の管理は利用者様では困難であり施設で管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者様の「出来る事」「やりたい事」を尊重して極力自力で行えるように見守りを重視、楽しみながら気分転換を図って頂くように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩若しくは適宜のドライブにより外出を楽しんで頂いている。なお、施設には専用の車両を用意して有りいつでも利用できる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金をもっている人もいる。それ以外の方は施設で管理し希望・必要に応じて日用品や化粧品等を自由に買い物が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける利用者様は、毎年、家族・親戚への年賀状を書いておられる。希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者様の要望を取り入れ、居室・食堂等の配置を変更したり、家族・地元農家から花の差し入れが有り居心地の良い環境を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室は冷暖房・床暖房が完備し一人で静かに過ごすことができる。又気の合う入居者・友人とゆっくりと話す事も出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により思い出の家具等（タンス・仏壇等）を持ち込み生活の継続を図り、楽しく居心地の良い環境を作るように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりの利用者様の身体機能が活かせるように、安全で自立した生活が出来るように細かく配慮されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム はくおうの里

作成日 平成22年10月5日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	19	現在家族は施設に全面的にゆだねっぱなしで面会の機会が少ない。	本人と家族の絆を大切に保持しながら施設は支援したい。	①面会に度々施設に足を運んで頂く重要性をお願いする。②家族会でも重ねてお願いする。	1年
2	40	食事は生活の基本なので職員と一緒に食事準備・下膳・後かたづけに参加を促す。	食事を一緒に楽しむ事が出来る支援をしたい。	ADLを考慮した簡単な献立を準備し参加を促す。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。